

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人あおい福祉会		
事業所名	グループホームしらかばおとふけ (あい)		
所在地	北海道河東郡音更町新通り7丁目3-19		
自己評価作成日	平成25年10月27日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0194700282-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「地域の方々の生きるを支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活ができるよう努める」を掲げ、職員一同この理念を基に利用者の支援を行っています。ホーム内の余暇活動は基より地域の行事への参加や、地域の方にも積極的に夏祭りに参加して貰っている。夏祭りには、ボランティアで中学校の吹奏楽の演奏もして頂いている。近隣の短期大学とも実習だけではなくコミュニケーションを深めボランティアや研修の講師としても協力して頂いている。今年度、初任者研修の開講、毎月の社内研修や毎年1回全体研修で事例発表を行っており、職員の意識・技術向上に力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

音更川流域の自然林に囲まれた静かな場所にあり環境に恵まれている。町内会の祭りに参加したり、事業所行事に地域住民が参加し、ボランティアが訪問するなど地域との相互交流が行われている。定例に開催される運営推進会議では、具体的な問題を投げかけ活発な議論を引き出して運営に反映させている。6月に事業所で看取りを行った。100歳近いその方は一年前に入所し、病院でがんの転移が診断され、家族と話し合った結果、「ばあちゃんの家はここ。最後をホームで迎えさせてあげたい」との家族の希望により、看取りを実施した。家族が分担して日中・夜間に付き添いを行うのを助けて、職員も出来る範囲で支援した。10日間の看取りであったが、職員には生と死、グループホームの役割を考える貴重な経験になった。当初看取りを躊躇した職員も安心して看取りを実行できた。すべては「ホームでの穏やかな死」を望む家族の強い意思と実践、家族の希望を実現させたいとの職員の願いとチームワークの結果だと考えている。管理者は職員育成に努め、研修や講習会の参加を職員に促し、専門性の高いケアが利用者の自立を支え楽しみのある毎日となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、朝礼時など理念を読み上げ共有し実践している	地域密着型の「地域住民と相互に協力する」という事業所独自の理念を掲げ、更に2ヶ月毎の具体的な目標を設定して毎日の朝礼で唱和し、介護における実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への行事の参加や、当ホームの夏祭りにも地域の方々参加され交流を図っている	町内会に加入し祭りなどの行事に参加している。事業所の夏祭りには地域住民が参加し、中学生や地元ボランティアが演奏を披露するなど相互の交流がある。高校からの実習生を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から勉強会等の依頼があれば受け入れる体制はとれている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を参考にし、ホームの委員会やサービス提供に活かしている	町職員、地域包括センター職員、町内会、家族、大学教授、老人クラブが参加して、2ヶ月毎に開催している。事業所行事の報告とともに、「ヒヤリハットの発生阻止」など具体的な議題を事例とともに議論し、活発な議論・意見をもらってサービスに役立てている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも町の職員が参加され、その中で意見を貰って取り組んでいる	運営推進会議を通じ、また月1回役場から利用者とは直接面談し聞き取りをするため訪れる介護相談員と話し合い状況を伝え、情報をもらいながら町との協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が与える影響について学び、拘束しないよう職員は話し合いケアに取り組んでいる	母体本部の身体拘束予防委員会を通じて身体拘束の弊害を理解し、言葉による拘束を含めて拘束のない事業所となるよう徹底化を図っている。徘徊発生事前対応マニュアルを備え、発生時には町役場・町内会・消防署など地域との協力体制ができている。施錠は防犯のため夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員は研修会等に参加し、虐待防止法についての知識を学び、防止に努めている			

グループホームしらかばおとふけ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の勉強会や外部の研修等で、権利擁護に関する制度を学び、町とも成年後見制度を必要としている相談・報告をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等の際は、ご家族に十分な説明を行い理解・納得に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、介護相談員がホームを訪問し利用者の意見や悩みを聞かれている。ご家族に関しては面会時にお話する事を心掛けている	本人から、または来訪時に家族と積極的に会話することを心がけ、話の中から意見や要望を汲み取るように努めている。出された要望は会議で話し合い、場合によっては運営推進会議にかけて改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開き、職員からの意見・提案を聞きホームの運営に反映させている	意見や提案といった明確な形でなくても、管理者は職員会議、毎日のミーティングや日常の会話のなかから聞き取った職員言葉の中から意見や提案の芽を見つけて、話題にして実現につなげてサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に準職員から正職員への昇格、永年勤続者表彰を行っており、休暇制度の確率に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回社内研修への参加と、外部研修へも積極的に参加し個々のスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修での実習の受け入れやグループホーム協議会の相互研修等で同業者と交流する機会があり、よりよいサービス提供できるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・ご家族共々、細部に於いて聞き取りを重ねている。ご本人から、悩みや不安な事が言える環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安等に耳を傾け、話をすることで関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くの情報を得られる時間をもち、よりよいサービスの充実に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で家事を一緒に行い、共に生活する者同士の関係を作っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し時には家族に相談し、共に本人の問題に取り組めるような関係作りに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも知人や家族と面会できるようにしている。	利用者は地域の行事に参加したり、理美容師が事業所に来てくれるなど馴染みの関係を作っている。家族が訪問時に月に一回飼い犬を連れてきて、犬を撫でたり触れたりしながらひと時を過ごす利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人孤立しないよう職員が、仲介に入ったり行事やレクレーションを通じて交流できるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かあれば相談等受け入れる体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿ったサービス計画書の作成に努めている	「その人らしく自由に安心できる場所」であるよう、利用者の思いや意向の把握に努めている。常に注意を向けて、固有のサインや態度から意向を汲み取り、「気付きノート」に記載し共有して、活かしている。また、家族から得た情報も活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用者から、これまでの暮らしについての情報収集し、サービスに活かせるようなプラン作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議やケア会議で、利用者個々の情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の希望や課題を、利用者本人・ご家族・関係者と検討し、より良く過ごすための話し合いを行い計画書作成している	利用者と家族の希望を取り入れながら、カンファレンスやモニタリングを通じて職員からの意見を出し合っ、現状に即した介護計画を作成している。必要なときはその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活記録を詳細に記録し、ケア会議や職員会議で、情報を職員間で共有し、支援に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時ご家族から相談にも対応し、必要であれば介護老人福祉施設への紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣近所の方の防災訓練への参加や、行政より毎月介護相談員の来所があり、豊かな暮らしを送れるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ定期的を受診し、ご家族と密に連絡を取りながら医師の指示屋連携を図り健康管理を行っている	かかりつけ医については本人・家族の意向を尊重している。従来からのかかりつけ医に受診できるように、可能な限り職員の同行や事業所での状態の報告などで支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に介護職員は看護職員へ報告・相談を行い、介護職員、看護職員共に、受診の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者にその都度連絡・相談や、状態の確認を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族と相談・話し合いの場を作り、ホームで出来ることを十分に説明し納得・理解した上で、その後の支援に取り組んでいる	契約時に「看取り介護に関する指針」をもとに看取りを行う条件とできる範囲を説明して同意をもらっている。そのときが来た場合、早い段階で相談に応じ、看取りの希望があるか、転院先などの情報提供が必要かなどを聞いて支援している。6月に「病院より、ホームで穏やかな死を迎えさせてあげたい」との家族の希望により、付き添う家族を支援しながら看取りを行って喜ばれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や消防署による救命講習に参加し、緊急時に迅速に対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣や地域と災害時相互応援協定書を結び、協力体制を作っている	地域住民も参加して年2回防災訓練を行っている。地域と災害時相互協定を締結している。加えて職員全員が避難誘導や火災通報装置や緊急連絡網の実施がうまく運用できるように、毎月事業所内で訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等に参加し、プライバシーや尊厳について学んでいる。人格や誇りを傷つけないよう、声の大きさや対応の仕方に注意している	「利用者が心身ともに健やかで、心地よい生活が出来るように」尊厳保持を重視して、日々の介護の仕方、特に声掛けに職員相互が配慮している。また排泄時や記録の保管などプライバシーを損ねないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の会話の中で利用者の希望や思いを聴き、日常の場面で自己決定につなげる環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、利用者の希望に沿い支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に自分で服を選んで貰い、イベント時にはお化粧を支援している		

グループホームしらかばおとふけ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で食事の準備を手伝って頂き、一緒に食事する事でその時の味付け等聞き、次に活かすように努めている	食事の内容や季節を話題にしながら職員と利用者は一緒に楽しく食事をしている。準備や後片付けを一緒に行っている。ちらしずし等の行事食やレストランへの外出などを適宜実施して喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養管理により、栄養バランスの整った食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に介助又は見守りにより、義歯の洗浄・歯磨き・うがい等の口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用具、排泄誘導が適正かどうか常に検討し、おむつからトイレ誘導へ変更する等支援している	機能維持と尊厳保持のため自立は排泄の重要性を職員全員が理解して、排泄パターンを記録して適切な声掛けをしながらトイレ排泄につなげている。トレパンから布パンへ向上した例がある。	トイレに転倒防止のための手すりの追加設置を検討されているので実現するよう期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の味噌汁に食物繊維を添加し、水分チェックと適度な運動・体操を行うことで便秘予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調不良の訴え等がある場合、別の日に入浴できる様配慮している	週2回を定めているが、嫌がる場合には無理強いせずに別の機会に様子を見て勧めている。利用者同士で一緒に入浴する希望を叶えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、状況に応じて休息して貰ったり、足浴を行う事で安眠につながるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が、利用者が服用している薬の用法、目的、副作用について学んでいる。薬の変更時は特に気をつけて周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の準備やテーブル拭き等能力を活かした役割を作り、毎月の行事等で楽しみごとや気分転換が図れる支援を行っている		

グループホームしらかばおとふけ（あい）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿い、外出の支援を行っている。ご家族の協力で、本人の希望で近隣の散歩へ出掛けしている	希望に応じて散歩を行う。弁当持参で花見など季節のドライブや遠足に出かけている。近くのショッピングセンターで散歩しながら、ペットショップで馴染みの、時には見慣れない動物を見るのを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームの金庫でお預かりしている。利用者本人が強く希望する際は、ご本人とご家族に危険性を含め説明を行っている。個々の希望を聞き、お金を使える支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族に電話を掛けたり、手紙を出す支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に、季節の行事の写真を掲示したり、飾り付けを行っている	共用空間は広く明るく、清潔に保たれている。壁面に行事の際の写真や季節の飾り物を貼り付けている。利用者はそれぞれの場所で、したいことをしながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで、各々集まり会話をしたり、テレビを観て過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れている物や、趣味として使用している物を、自宅から持ちこみ、居心地よく過ごせる様に支援している。	家族の写真を飾り、使い慣れた小物・家具が置かれるその人らしい居室になるように支援している。仏壇・神棚等持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置し、手すりを使いながら歩かれたり、居室やトイレの場所が分かる様工夫している		